

ナシマルカイガラムシ情報第1号

平成30年5月1日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除室

**防除適期は5月下旬で、前年より5～9日早いです！
防除適期を逃さないように注意しましょう。**

1 ナシマルカイガラムシの防除適期

雌成虫（図(左)）、卵、2齢幼虫は介殻（カイガラ）で覆われ薬液がかかりにくいいため、その時期に農薬散布しても防除効果はほとんど期待できません。農薬による防除効果が高いのは、ふ化後に介殻からはい出してくる1齢幼虫（図(右)）の時期です。特に、第1世代1齢幼虫の発生時期はそろっており、高い防除効果が期待できます。また、葉もあまり繁茂していないので、農薬の散布むらが生じにくく、最も有効な防除時期です。

発生ピークは3月から5月の気温により変動するので、毎年、有効積算温度による防除適期予測に基づいて防除することが重要です。

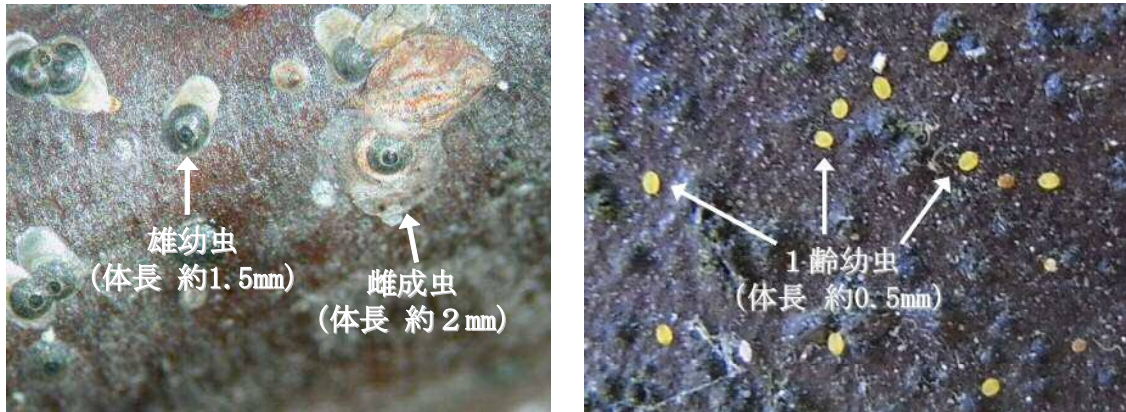


図 ナシマルカイガラムシの雄幼虫と雌成虫（左）、1齢幼虫（右）

2 防除適期予測

有効積算温度を利用したナシマルカイガラムシ第1世代1齢幼虫の発生ピーク予測日は、**5月20日から5月28日**です（表）。5月15日発表予定の「あいち病害虫情報 最新情報」ではそれまでの実測値で再計算した予測日を掲載する予定ですので、参考にしてください。

表 ナシマルカイガラムシの第1世代1齢幼虫発生ピーク予測日

	愛西	南知多	名古屋	大府	豊田	岡崎	蒲郡	新城	豊橋	伊良湖
本年	5/27	5/28	5/21	5/20	5/24	5/27	5/24	5/28	5/23	5/26
前年	6/1	6/2	5/29	5/29	5/30	6/2	6/1	6/6	6/1	5/31
前年差	5日早	5日早	8日早	9日早	6日早	6日早	8日早	9日早	9日早	5日早

アメダス平均気温から予測。4月30日までは本年実測値を、それ以降は平年値（大府、豊橋は前年値）を用いて計算。前年は、前年気温の実測値を用いて計算。

3 ナシにおける防除

- (1) 第1世代1齢幼虫発生ピーク予測日を参考に、アプロードフロアブルやスプラサイド水和剤、モスピラン顆粒水溶剤などで防除しましょう。
- (2) 雌成虫が重なり合って寄生している場合は、薬液が1齢幼虫の虫体にかかりにくいので、雌成虫を削り取ってから農薬を散布しましょう。
- (3) 農薬の散布むらがないように十分な薬液量を丁寧に散布しましょう。